

## 【巻頭言】

### with コロナ時代における部会活動

内田幸子

高崎健康福祉大学健康福祉学部

2019年12月に中国の武漢で発生した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は瞬間に世界中に広がり、未だに収束しておりません。この原稿を書いている11月9日現在の世界の新型コロナウイルスによる死者数は125万人に増加しました。新型コロナウイルス感染症のワクチンが開発され、安心して接種して予防的に使用できるまでには時間がかかるといわれています。

新型コロナウイルスの感染拡大は、人々の健康と日々の暮らしに大きな影響を及ぼし、コロナ対策では、行政・経済・医療・福祉・教育など社会全般にわたるデジタル化の遅れが浮き彫りになりました。菅首相はデジタル庁を創設して行政システムのデジタル化を図る構想を発表しました。我が国のIT化は世界標準に比べ周回遅れといわれていますが、これを機に短期間で遅れを取り戻すことが望まれています。

移動と対面の交流が制限されたwithコロナ時代において、全国の大学がオンライン授業への切り替えを余儀なくされました。私自身も、これまで経験したことのない急激な教育スタイルの変化に、戸惑いを感じながらも、日々の業務をこなし乗り越えてきたこの数か月であったと振り返っております。

教育活動のみならず、学会活動や部会活動も様々な制約を余儀なくされています。5月に高崎健康福祉大学を会場として開催される予定であった日本家政学会第72回大会は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、中止となりました。大会中に開催予定であった部会の役員会はweb会議、総会はメール審議での対応となりました。web役員会では、遠隔でもストレスを感じずにコミュニケーションを図ることができたように思いました。もちろん対面会議の方が意思の疎通が図りやすいですが、withコロナ時代における役員会としてはやむを得ません。一方、大会実行委員を経験して、家政学会年次大会期間の昼休みに開催されてきた

第1回役員会についてはランチョンセミナーへの参加人数を確保することを考慮して、web会議に変更しても良いのではとも感じました。

また、実行委員長の佐藤希代子先生を中心とした四国・中国・九州の部会員の先生方のご尽力で準備を進めていただいた第39回被服衛生学セミナーは、来年度に延期し、役員会・総会も前回と同様の形式となりました。

10回目の公開講座については、企画委員長の潮田ひとみ先生を中心に、2021年3月に実施する予定であります。『衣服と健康の科学最前線』のテーマで、サブタイトルを、「加齢に伴う身体特性、身体機能、諸感覚等の変化」として企画され、web開催が計画されています。

編集委員長の水野一枝先生を中心に、被服衛生学第40号が刊行されました。部会誌には総説、原著論文、海外レポート、研究室紹介、著書紹介が掲載され、部会員の研究発表の場、交流の場としての役割を担っています。

withコロナ時代にあって、部会活動は制限を受けながらではありますが、部会長の平林由果先生のもと、創意と工夫によって対応して参りました。

平田耕造先生を実行委員長とする日本家政学会第73回大会は、神戸女子大学を開催校とするオンライン開催となりました。倉敷での被服衛生学セミナーで集い、交流を深められることを願っております。部会員の皆様におかれましては、くれぐれも健康と安全にご留意ください。

---

#### <連絡先>

〒370-0033

群馬県高崎市中大類町37-1

高崎健康福祉大学健康福祉学部社会福祉学科

内田 幸子

TEL : 027-352-1290

MAIL : uchida@takasaki-u.ac.jp